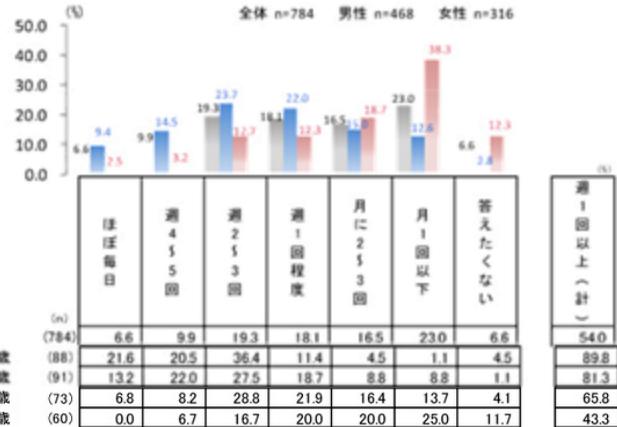
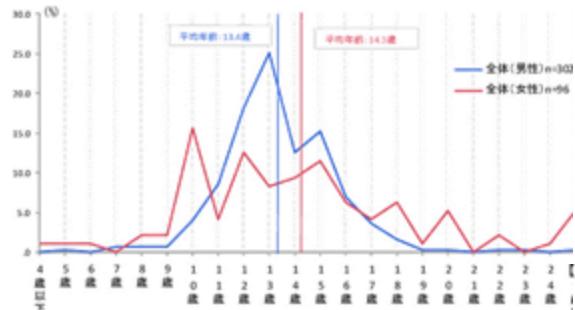


「知的障害・発達障害児のための射精支援ガイドライン」レビュー

1 10歳以降になると途端に増える性の相談

- 布団の中でハアハア…って言っているんです。
- うちの子、先日パンツを洗っていたんです。
- トイレに籠もって出てこないことが増えたんです。
- 自分の股間の臭いを嗅ぎたがって困ります。
- 人が見ている前でも性器いじりがあつて困ります。
- 成人雑誌コーナーで必ず立ち読みしてしまうんです…等々。

2 統計から見る自慰行為



出典:SOD sex survey. 2012 <http://2012.sodsurvey.jp/>

- 統計から見ると9歳辺りから男女ともに自慰行為の経験率が急激に上がっていく。男性の自慰行為初体験の平均年齢は 13.4 歳、女性の自慰行為初体験平均年齢は 14.3 歳となっている。
- 頻度から見ると、男性の 16-19 歳の実に 21.6% が毎日自慰行為をしているとの回答が出ており、一週間に1回以上の自慰行為を行っている率は 89.8%(n=88) となっている。また、女性の 16-19 歳も一週間に1回以上の自慰行為を行っている率は 65.8%(n=73) となっている。

3 「自慰行為＝性的問題行動」ではなく「自慰行為＝健康な証拠」である

- 性的な欲求は人間がもつ健全な欲求であり、障害の有無を問わない。「人の根源的な欲求」や「幸福」を考える際に大切なことは先生である「私」の欲求や幸福と、障害のある人のそのゴールは全く同一の場所にあるということ。
- 自慰行為を「叱る」、「禁止する」というやり方では、叱る人、禁止する人の目が届かない所では必ずその行為は復帰している(応用行動分析上の「弱化」と「復帰」の原理)。なので、「叱る」「禁止する」のではなく、ルールを教えて、適切な場所で適切な頻度で行えるようにしていくことが望ましい。

4 暗黙のルールやナチュラルラーニングのしにくさと障害のある方の性

- 知的障害のある方(特に自閉症スペクトラム障害のある方)は、健常の人が生活をしていく中で自然に学んでいくことを、自然に習得(ナチュラルラーニング)しにくいと言われています。それは人前で性器いじりをしてはいけないということであったり、人前で性器の話をしてはいけないということであったり、思春期以降の異性との距離の取り方であったりもします。なので、自然に習得するような暗黙のルールについても明文化・視覚化した分かりやすいルールとして提示することが大切です。

5 コンドームを射精許可のプロンプト(手がかり)にする

- 男性の自慰行為の後処理自体はティッシュペーパーだけでもできるのですが、敢えてコンドームを使うことが望ましいと紹介されています。それは、コンドームによって自慰行為の許可回数を示せることや、場所を限定することができるところから。ティッシュペーパーだと色々な所に射精のプロンプトがある状態になってしまいます。

6 射精指導は幼少期(6歳頃)のちんちんの洗い方の指導から始まる

- 中学生になって、お母さんと一緒にお風呂に入れなくなって、性器いじりが始まったり、性的な興味が増したりしてからいざ! 射精指導を始めるのではなくて、6歳くらいから段々とちんちんの洗い方や包皮の剥き方などを教えると、思春期をスムーズに迎えることができる場合が多いと紹介されています。